

身体動作学研究会
News Letter

第 07 号
(臨時増刊号)

事務局 日本体育大学・身体動作学研究室
東京都世田谷区深沢 7-1-1
TEL & FAX 03-5706-0950
e-mail: human-p@nittai.ac.jp

★ 身体動作学研究会・役員選挙結果
★ 第12回身体動作学研究会(東京)の案内
★ 第13回身体動作学研究会(仙台)の報告
★ その他&事務局日より

身体動作学研究会・役員選挙結果

平成 13 年 10 月 18 日

身体動作学研究会 会員各位

選挙管理委員会委員：高橋勝美、西山哲成
林 恭輔、藤永 博

研究会会長および運営委員選挙結果の報告

平成 13 年度、身体動作学研究会会長および運営委員選挙の結果をご報告いたします。

- ・ 開票日 7/28 (開票者：西山哲成、林恭輔)
- ・ 会員数 (=投票用紙発送数) 83 枚
- ・ 投票数 会長 28 票、運営委員 28 票 (いずれも無効票なし)
- ・ 集計の結果
 - 会長 1 名 西園秀嗣さん
 - 運営委員 7 名 天野勝弘、伊坂忠夫、高橋勝美、西山哲成、藤永博、船渡和男、柳等さん

この結果は第 13 回身体動作学研究会 (平成 13 年 9 月 18 日、仙台) の総会で報告された。

第12回身体動作学研究会（東京）の案内

会員各位

平成13年10月30日

第12回身体動作学研究会

大会会長 大桑 哲男

事務局長 船渡 和男

第12回身体動作学研究会の案内

秋も次第に深まり日に日に寒くなってきましたが、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、第12回身体動作学研究会を、下記の要項にて開催いたしますので、多数ご参加いただけますようご案内いたします。

充実した研究会にするべく、多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。

研究会要項

1. 会 期：2001年12月15（土）～16日（日）

2. プログラム（予定）

15日（土） 研究会：午後1時～5時（受付12時30分～）

1（ワン）スライド・ミーティング

特別講演：石井喜八先生（予定）

懇親会：18時～（渋谷を予定）

16日（日） 研究会：午前9時～午後1時

教育講演：演者未定

（博士号を取得した会員に依頼の予定）

一般口頭発表

3. 会 場：日本体育大学・日体会館

4. 演題の募集

下記の2つの形式の中からお選び下さい。

(1) 1スライド・ミーティング

話題提供性のあるデータを、1つのスライドで代表させ、参加者で意見交換、議論を行う場を設けます。一つの話題について30分程度の時間をとる予定です。したがって、発表は学会発表のような形式はとらず、発表者は示したデータを簡潔かつ、現時点における問題点がわかるように、5分程度で話題提供していただきます。

集まった演題の傾向によっては、1ないし2のシンポジウム形式に発展させることも考えています。

(2) 一般発表

従来 of 口頭発表の形式をとります。発表時間は15分程度です。

※発表には、OHP、スライド、PCプロジェクター（パワーポイント）が使用できます。

5. 参加および一般発表申し込み

(1) 演題、参加申し込み締め切り：平成13年12月7日（金）

(2) 参加申し込み：E-mailあるいは電話にて、研究会の参加と懇親会への出席の二点をお知らせ下さい。

発表申し込み：上記に加えて、E-mailあるいはFaxにて、いずれの形式の発表を行うかを連絡の上、抄録（400字程度）を送付してください。

○Tel & Fax : 03-5706-0950

○E-mail : human-p@nittai.ac.jp

○発表方法：口頭発表

(3) 参加費 研究会参加費 ¥1,000
懇親会費 ¥6,000（予定）

ニュースレターの原稿を募集しています！

このニュースレターは、情報交換の場ですので、研究や実技指導などに関する情報をお待ちしております。また、本の紹介なども有意義かと思えます。専門的な本はどこからでも情報が入りますが、ちょっと気づかないけれども、ぜひ皆に読んでもらいたいような本がありましたら、ちょっとした内容紹介をつけてお知らせください。

第13回身体動作学研究会（仙台）の報告

プログラム

平成13年9月18日 13:00～17:30

仙台国際センター小会議室1

1. シンポジウム 13:00～15:30

テーマ：「パフォーマンスを支える因子：見えるもの、見えないもの」

司会：天野勝弘（関東学園大学）

ご挨拶（司会：天野勝弘） 13:00～13:05

○河端隆志（大阪市立大学）

「サッカー選手の血液量と持久的運動能の関係」 13:05～13:35

○三浦孝仁（岡山大学）

「最大筋力を競うパワーリフティング競技の分析から」 13:40～14:10

休憩 14:15～14:25

○藤永 博（和歌山大学）

「脳波の複雑さと「集中」」 14:25～14:55

総合討論 15:00～15:30

休憩 15:30～15:40

2. 一般研究発表 15:40～17:10

座長：岡本直樹（立命館大学）

○西山哲成（日本体育大学）

「映像記録の手法を用いた汗腺活動の観察」 15:40～16:00

○高畑美希（岡山大学大学院教育学研究科）、鈴木久雄（岡山大学）

「大学生の血圧・血清所見に及ぼす身体組成・体力・スポーツ活動量の影響」

16:00～16:20

休憩 16:20～16:30

○新宅幸憲¹、臼井永男²、赤塚 勲¹（¹大阪成蹊女子短期大学、²放送大学）

「幼児期における体格・運動能力・足底面の年次変化について

—3歳児における12年間の推移から—」 16:30～16:50

○林 恭輔（日本体育大学）

16:50～17:10

3. 総会

17:10～17:30

傍聴記

1. シンポジウム傍聴記

群馬工業高等専門学校 櫻岡 広

9月18(火)に、第13回身体動作学研究会が体力医学会のサテライト研究会として、宮城県仙台市の仙台国際センターを会場として行われました。続けて出ていらっしゃる方は、「あれ、第13回? 第12回をしてないじゃん。」と思われるかもしれませんが、諸般の事情で第12回は12月頃に行われる予定だそうです。諸般の事情については、第12回に出席してお聞き下さいますようお願い申し上げます。

天野勝弘、高橋健太郎、私の群馬3人衆(天野さんの家は埼玉ですが)は今回の幹事ということで、朝7時頃、車で群馬を出発し11時30分頃会場に到着しました。私は仙台に行くのは初めてだったのですが、高速のインター付近は山だったのに、そこからすぐの「トンネルを抜けるとそこは大都会だった」のには驚きました。

さて、研究会の方ですが、さすがサテライト研究会だけあって、案内も会場もすべて準備ができていて、後は持ってきたプロジェクターの準備とこまごまとしたことをするだけでした。研究会の参加者は21名(発表者、身体動作学研究会の会員以外の方5名を含む)でした。今回のシンポジウムは「パフォーマンスを支える因子: 見えるもの、見えないもの」というテーマです。3名のシンポジストは、大阪市立大学の河端隆志さんが「サッカー選手の血液量と持久的運動能力の関係」、岡山大学の三浦孝仁さんが「最大筋力を競うパワーリフティングの競技分析から」、和歌山大学の藤永博さんが「脳波の複雑さと「集中」という題目で話していただきました。河端さんが「中枢」、藤永さんが「末梢」、三浦さんが「パフォーマンス」という流れでの構成だそうです。

3人の発表を聞いて、普段から思っていることなのですが「人間というやっかいな(複雑な)所に首を突っ込んでしまったな」という感がますます強くなりました。我々の仕事は、「見える

ところをハッキリわかる」ようにし、「見えないものを見るようにする」ことだと思いますが、それでもまだ、人間の中には「見えないもの」の方が沢山あると感じましたし、それを忘れてはいけないと思いました。藤永さんのお話は、韓国での研究会での発表の続きだそうです。人間を今までと違った手法(数学)でみることにより、今まで「見えなかったもの」が見えてくるのではないかと思いました。

休憩後、一般研究発表の4題がありました。発表者は、西山哲成さん(本年度より日本体育大学)、高畑美希さん(岡山大学大学院、鈴木久雄さんの所の大学院生)、新宅幸憲さん(大阪成蹊女子短大)、林恭輔さん(日本体育大学助手)でした。

西山さんは、愛知医科大の時の研究の紹介で汗腺から汗が出てくるところをビデオで見せる予定でしたが、ビデオのバッテリー切れで写せませんでした。発表は何度か見せてもらっているものなので、日体大にお寄りの節に詳しくお聞き下さい。それにしても、日体大に卒業生が戻ったことは、研究室にとっても我々にとっても本当に喜ばしいことだと感じています。

新宅さんは、長年測ったデータを一アシックスに渡したそうです。子どもを持つ親(8才と1才7ヶ月)としては子どもの靴に関して、いつも疑問を持っていたのでアシックスが新宅さんのデータを使って良い靴を作ってくれることを期待したいと思いました。

研究会の終了後、場所を移して懇親会となりました。私と天野さんは、ホテルに寄ったのと、迷ってしまったのでかなり遅れてしまいました。申し訳ありませんでした。懇親会の参加者は13名で仙台での楽しい夜を過ごせました。今回の懇親会の会場の手配は、高橋健太郎君が仙台にいる友人と連絡を取って店を紹介してもらい、良い店で懇親会を開くことができました。高橋君ご苦労様でした。

2. 一般研究発表の積極的な参加を（司会務めさせていただきます）

立命館大学 岡本 直輝

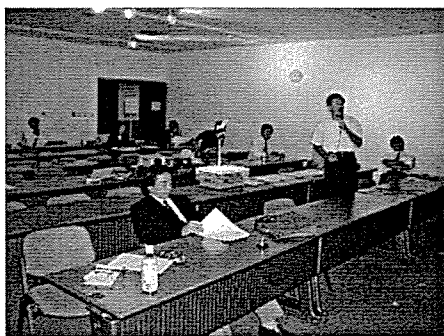
シンポジウムの後、4本の研究発表が行われた。西山先生（日本体育大学）の「映像記録の手法を用い汗腺活動の活動」、高橋先生（岡山大学教育学部）の「大学生の血圧・血清所見に及ぼす身体組成・体力・スポーツ活動の影響」、林先生（日本体育大学、身体動作学）の「筋の長さ変化に伴うトルク出力変化」、新宅先生（大阪成蹊女子短期大学）の「幼児期における体格・運動能力・足底面の年次変化について」であった。

今回、司会を務めさせていただき、シンポジウム後すぐ一般発表が行われるため、参加者の意識を切り換え進行することが大変難しかった。またそれぞれの発表を身体動作学研究として位置づけて、フロアーからの意見を引き出すことができず、参加者に十分満足して頂けなかったのではと反省している。特にシンポジウムのディスカッションを引き継いだ雰囲気になってしまった（複雑系の話が脳裏に焼きついたのでは？）。

足の汗腺活動の様子を紹介された西山先生の報告に、フロアーから「身体動作学（スポーツ活動）」とどのように関連するののかという質問が出され、これに対して「スポーツの動作分析手法を発汗研究に応用したという実践報告であり、この手法をこの研究会でしか報告できない」と返答された。このディスカッションが本来の研究会の雰囲気取り戻してくれたと大変感謝している。

「12年間の土踏まずの変化は、運動形式や生活様式の変化と関連するのではないかと考える」という新宅先生の研究報告に対して、間違ってもいいから具体的な結論を述べてほしいという参加者の意見が数多く出された。このように今回の研究会では、4名の発表者を含め参加者が、身体動作学研究会と体力医学会との発表の違いがどこにあるのかを自問自答され意見を述べられていたのではないかと思います。

シンポジウムで三浦先生（岡山大学）から、本研究会を研究者と指導者の中間域に位置づけるものとして「田舎大学で日本一、世界一を狙う」という岡山大学パワーリフティング部の報告があった。「なぜ日本一になれたのか？」という経験話をコーチの域を多少超えて（研究者側）、話されたように感じた。このような話題を会員の方ならいくつかはお持ちであろう。「思うのは勝手です」という石井先生の叱咤を恐れず、思うことを話す機会が大切であろう。特に今回司会を務めさせていただき、スポーツ科学でまだまだ解明されていない話題を皆様からどしどし提供していただくことが研究会の発展につながるのではないかと感じた。現在、アメリカンフットボールの指導者を卒業し、バスケットボールの指導者として試行錯誤しているが、この競技の体力測定法の開発や応用は皆無であることを知った。次回はこの種の内容で発表しようかと考えている。きっとハンドボール関係者の自慢話が出てくるだろう（神奈川工大あたり？）。



事務局便り

1. 第11回身体動作学研究会・会計報告

平成13年5月25日

下記の通り報告いたします。

第11回身体動作学研究会事務局
会計担当 小松 敏彦

収支決算	単位：円
収入総額	320,000
支出総額	505,510
不足総額	-185,510
差引総額	0

収入内訳（決算額）	
科目	単位：円
第11回身体動作学研究会参加費	230,000
身体動作学研究会・補助金	50,000
寄付金（5社から）	40,000
計	320,000

支出内訳（決算額）	
科目	単位：円
Welcome party 代	75,000
3/31 昼食代（カルピ屋）	54,600
送迎バス代	50,000
Tシャツ代（振込み料含）	78,855
ホテル代不足分支払い（安先生）	20,000
安先生及び研究室土産代（9月、3月の2回分）	13,825
事務用品及び通信費	13,200
3/29 仁川空港送迎リムジンバス代（5名分）	2,180
事務局会議費（藤永交通費10回分）	50,000
韓国打合わせ旅費（河端61,500、小松86,300）	147,850
計	505,510

上記、会計報告につき審査の結果、間違いのないことを証明します。

監査 熊本 和正 印

2. 第11回身体動作学研究会事務局のコメント

第11回身体動作学研究会の会計報告について

会計担当
小松 敏彦

平成13年3月29日～4月1日に韓国成均館大学にて開催されました第11回身体動作学研究会の会計報告を致します。

この研究会への参加費、日体大身体動作学研究室からの準備金、企業5社からの寄付金による収入総額が320,000円、研究会閉会までの支出総額が505,510円、そしてこれらの収支差分を不足総額として185,510円を計上することにより差引総額0円として決算し、監査を熊本和正氏にお願い致し、お認め頂きました。

その支出内訳は、初日に welcome party、3/31 昼食及び送迎バス代金として一括180,000円を安先生に渡し、また、最終日にホテル宿泊代の不足立て替え分の20000円を支払いました（これは本来個人支出分ですが、当初、安先生から請求された金額が実際のレート計算の額と若干異なっていたことによる不足金で、解散後ということもあり、事務局側で処理をしました）。また、本研究会の記念Tシャツ代（Tシャツ、プリント及び版代、銀行振り込み代）が78,855円、そして安研究室への土産、事務用品、通信、空港までの事務局員のリムジンバス代が記載のとおりです。

不足総額とは、昨年9/30～10/2の安先生との打ち合わせのための韓国訪問費ならびに事務局会議費としています。これについてはご意見等があると思いますが、本研究会事務局としましては、奈良の体育学会期間中に開催されました助手会議にて決定しました、「研究会基金の20万円を配分する」を踏まえた上での韓国打ち合わせ旅費の執行に対し、後日その配分を見合わせるということから、結果として見込み違いとなった金額がマイナス分です。また、事務局会議費としては事務局員藤永氏の和歌山～大阪間の10回分の交通費で、これは韓国往復の運賃に相当します。県を跨いだ小旅行ともいえる会議出席は大変だったろうと思います。会議の開催は専ら夕方からでしたから、帰宅はいつも深夜の大阪からの釣り人専用列車という具合でした。なお、他の事務局員については会議場が通勤圏ということもあり、考慮はしていません。以上が今回の収支内訳です。

まだ年会費を支払っていない方は、下記口座までお願いします！
年会費は2,000円です。

「年会費」の納入先（郵便振替）

加入者名：身体動作学研究会

口座番号：00190-6-729866

3. 第13回身体動作学研究会・会計報告

平成13年10月10日

上記の通り報告いたします。

第13回身体動作学研究会事務局
世話人（会計担当） 高橋健太郎

収支決算	単位：円
収入総額	99000
支出総額	94408
差引総額（研究会へ返還）	4592

収入内訳	
科目	単位：円
参加費	12000
身体動作学研究会・補助金	10000
懇親会費	77000
計	99000

支出内訳	
科目	単位：円
会場費	4550
駐車場代	3100
コピー代	3000
懇親会費	79296
通信費・雑費	4462
計	94408

上記、会計報告につき審査の結果、間違いのないことを証明します。

監査 西山 哲成 印

編集後記

今回のニュースレターは、臨時増刊号として発行しました。重要な連絡があったからです。したがって、事務連絡事項ばかりになりました。それでも、多くの方の協力（原稿、発送作業など）をいただき発行することができました。ここに感謝の意を表し、編集のあとがきとさせていただきます。（天野）

発行	身体動作学研究会 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL & FAX 03-5706-0950 e-mail: human-p@nittai.ac.jp
編集	天野勝弘（関東学園大学） TEL & FAX 0492-45-2403 e-mail: amanoringo@yahoo.co.jp

